【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】（中学校用）

都道府県名	北　海　道

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	標茶町立虹別中学校					
学　年	１　年	２　年	３　年	特殊学級	計	教 員 数
学級数	1	1	1	1	4	１４
児童数	１３	１１	１４	1	３８	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自らの課題を発見し、基礎学力を獲得しながら、学び続ける生徒の育成
―自らの興味・関心を持続させ、学び続ける学習指導の研究―

２．研究内容と方法

⑴ 実施学年・教科

○ティームティーチング
全学年　　数学科　　英語科
生徒の理解の程度に差が出やすい教科であるため。
全学年　　総合的な学習の時間
生徒の興味・関心に基づき、教師のいろいろなサポートを受けやすくするため。
○選択教科（少人数指導）
全学年　選択基礎（国語科、数学科、英語科）
小学校の既習事項など、各教科の基礎的な学習事項の定着が必要なため。
２年生　理科、社会科
３年生　国語科、数学科、理科、社会科、体育科、技術科、家庭科
選択教科については、全学年生徒選択にて実施する。それぞれの教科について、学習に対する興味・関心を高めるため。

⑵ 年次計画

平成14年度	○　テーマ　**瞳を輝かせながら、課題を追究し、粘り強く解決していく生徒の育成** 基礎学力向上に向けた指導方法の工夫と評価の在り方 ○　仮説　　各教科の基礎・基本を明確にし、学力に差のある生徒がそれぞれの課題を追究するための指導法や評価の工夫改善を図ることにより、意欲的に粘り強く解決していく生徒が育成されるであろう。 ○　研究内容・方法 ・標準学力検査、学習適応性検査等の実施による実態把握。 ・学習課題を解決するための指導方法の工夫と評価の進め方の研究。 ・授業研究を通した指導内容や指導方法の工夫改善。 ・目標に準拠した評価に関する理論研修による各教科の評価規準と評定に関する共通理解。 ・数学と英語におけるティームティーチングの在り方や個に応じた指導に関する理論研修と実践。

平成15年度	○テーマ　**自らの課題を発見し、基礎学力を獲得しながら、学び続ける生徒の育成** ―自らの興味・関心を持続させ、学び続ける学習指導の研究― ○仮説　「生徒の習熟度を重視した学習の時間において、生徒の興味・関心を呼び起こし、生徒の学びを粘り強く支援する教師の個別指導が、意図的・計画的に行われれば、生徒の興味・関心が持続され、将来にわたって、学び続ける生徒が育成されるであろう。」 ○　研究内容・方法 ・少人数の学級・学年規模にふさわしい、生徒一人一人に応じた学習指導の在り方を追究していく。 ・習熟度別指導の在り方を工夫しながら実践研究を行い、同時に評価の在り方を研究する。 ・前年度の研究を土台に、選択教科の時間を大切にしながら、「学び続ける」生徒像を追究する。 ・「総合的な学習の時間」の理論研修を行い、本校にふさわしい「理論」「実践」「検証」のサイクルをつくり上げる。 ・研究の全体構造図・研究仮説の完成を図る。 ・各教科において、全体仮説実現のための「具体仮説」を作成し、それに基づいて実践・検証を行う。 ・「積極的な team teaching」の研究を行う。 ・教科指導、選択教科指導との相違性と関連性についての研究を行う。 ・他校の研究会・研究団体の研究会に意欲的に参加し、還流・交流に努める。 ・研究主題・仮説の見直し検討を行う。 ・学力診断カルテの作成を行う。 ・学力向上フロンティアのプレ研を 11 月に開催し、本研究の中間まとめを行う。

平成16年度	○テーマ　**自らの課題を発見し、基礎学力を獲得しながら、学び続ける生徒の育成** ―自らの興味・関心を持続させ、学び続ける学習指導の研究― ○研究の見通し 平成１５年度の研究の成果（フロンティアプレ研究大会）を生かして、継続研究を行う。 ○　研究内容・方法 ・昨年度の研究を土台に、授業実践を積みながら、本校生徒の基礎学力の向上を目指す。 ・少人数の学級・学年規模にふさわしい、生徒一人一人に応じた学習指導の方法を追究していく。 ・習熟度別指導の在り方を工夫・改善しながら、実践研究を行い、同時に評価の在り方を研究し、教科指導の工夫・改善に生かす。 ・前年度の研究の成果を生かし、選択教科において、興味・関心を醸成させるなど「学び続ける」生徒像を追究する。 ・学力診断カルテの工夫改善と、生徒理解の取組を強化し、授業改善を図る。 ・小学校との連携を図り、生徒の実態を踏まえた「選択基礎（３教科）」の充実を図る。 ・地域先生の招聘をするなど、積極的に地域の教育力を活用する。

(3) 研究推進体制

・研究の全体計画・授業研の企画・運営は研修部が行う。
・フロンティア推進委員会を中心として、教職員全員でフロンティア事業を成功させる。
・教科部会として、5 教科部会、芸能教科部会を設置し、指導案等の検討を行う。
・生徒指導の課題及び総合的な学習の時間の充実については、学年部会を設置し検討する。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・選択基礎が設けられたことにより、習熟度別指導の有効性、有益性が確認できた。
・TT の研究授業を行うことにより、TT 指導の有効性と限界が明らかになった。
・選択教科、必修教科の中でも習熟度別指導の実践が生まれてきている。
・教師の授業改善に対する意識が学力向上フロンティア事業の実践により、高まってきている。

２．今後の課題

・今年度選択教科の中に選択基礎を設けたことは、生徒にとっても教師にとっても有益な成果であった。必修教科の中でも、選択基礎のような取組をすることが求められている。
・少人数指導の在り方を全教師で追究していく必要がある。
・学校の特色を生かした少人数指導のための教育課程の改善を図る。
・学力診断カルテによる生徒の見取りの充実を図る。
・保護者、地域や小学校との連携を図る。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

・標準学力検査。
・学力診断カルテの作成と活用。
・学習意欲アンケート。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成１６年度に道東地区学力向上推進協議会公開研究会を開催する。
・これまでの取組の概要や、今後の予定についてホームページで発表する。
　アドレス　http://www.nij.shibecha.ed.jp/
・釧路管内の小中学校には、今年度の経過や成果及び参考資料をＣＤ－ＲＯＭにて配布する。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　◯１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　◯４～６学級
□７～９学級　□１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　◯少人数指導　◯Ｔ．Ｔによる指導
□その他

【研究教科）　◯国語　□社会　◯数学　□理科
◯外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　◯有　□無